

藤本勉氏旧蔵コウノトリ関連資料について

* 中井淳史¹

Archive: On the research materials for Oriental White Stork collected by the late Tsutomu Fujimoto

* Atsushi Nakai¹

¹ Graduate School of Regional Resource Management, University of Hyogo, 128, Shounji, Toyooka, Hyogo Pref. 668-0814, Japan

* E-mail: anakai@rrm.u-hyogo.ac.jp

はじめに

ここに紹介するのは、在野の野鳥研究者・保護活動家であった藤本勉氏（1934～2021）がその活動のなかで撮影あるいは収集した資料である。昨年、野鳥研究者で氏と長い交流のあった黒田治男氏を介して、氏のご遺族よりコウノトリに関する写真や資料を兵庫県立コウノトリの郷公園に寄贈したいという打診を受けた。おりしも同園ソシオ研究部ではコウノトリと人間の関係史の研究を課題のひとつとして掲げ、コウノトリの繁殖地として戦前に天然記念物指定を受けた出石鶴山（豊岡市出石町桜尾）を中心に、近代以降の歴史資料の収集に関心を寄せているところであった。氏が撮影された写真には1950年代末前後の但馬地域のコウノトリが含まれており、また後述するように、コウノトリの保護運動にも携わっていた関係から、それに関する書簡や当時の新聞記事なども含まれていた。ソシオ研究部で拝見したところ、野外個体が絶滅する直前の時期の状況がわかり、当時展開されていた保護運動の一端を知ることのできる歴史資料としての価値がみとめられるものと判断されたため、黒田氏を通じて藤本氏旧蔵のコウノトリ関連資料を一旦お預かりし、その資料目録を作成することとした。本稿では氏の活動の軌跡について紹介したうえで、資料の概要とその歴史的意義について若干の見通しを述べるものである。

¹ 兵庫県立大学大学院地域資源マネジメント研究科／兵庫県立コウノトリの郷公園

668-0814 兵庫県豊岡市祥雲寺128

* E-mail: anakai@rrm.u-hyogo.ac.jp

なおここに紹介する資料は現在、コウノトリの郷公園で保管している。整理作業はなお継続中であるが、最終的には閲覧等の利用に供することが可能な方策を講じてゆきたいと考えている。本稿はまずは速報を兼ねて、現時点で明らかになった概要を示すものである。

藤本勉氏の活動

藤本勉氏は1995年に、コウノトリを題材とした写真集『消えた翼 湿原の女神コウノトリ』（以下、写真集とよぶ）を出版した（藤本 1995）。そこには氏が撮影したコウノトリの写真だけでなく、氏とコウノトリの関わりについてもエッセイ風に記されている。ここではその記述にもとづきながら、氏の略歴や活動の軌跡を確認しておきたい。

氏は1934年生まれ、太子町で会社経営の傍ら、野鳥の研究やコウノトリの保護活動に携わった。写真集の奥書に示された略歴によれば、1947年より野鳥に興味を持ちはじめたという。1949年に小林平一（注1）に師事し、日本野鳥の会や日本鳥学会に入会して野鳥の調査や写真撮影をはじめた。写真集刊行当時は西播愛鳥会会長、日本鳥類保護連盟会員、姫路市自然保護審議会委員、姫路市自然観察の森運営委員をつとめており、但馬へは昭和27（1952）年春にはじめて小林平一と調査に来訪して以来、数十年にわたって毎年訪れてコウノトリの生態を写真におさめていたという。1995年刊行の写真集はその成果のひとつでもある。

一方で氏は鳥類剥製の作成や収集もおこなっており、氏の収集した鳥類標本は2009年に山階鳥類研究所へ寄贈された（小林・山崎 2010）。

藤本勉氏旧蔵コウノトリ関連資料の概要

1. 資料の分類

藤本氏のご遺族よりお預かりした資料は写真パネルや新聞・雑誌記事類、先述の写真集や若干の原稿（抜刷）類である。これらは氏自身の手によって作成されたもの（写真や著作物）もあれば、新聞記事のスクラップ

のように第三者が作成した記事や文章をまとめたものもある。整理にあたっては、氏の撮影・執筆になるものか否かでおおきく原資料と複写等資料に大別し（大分類）、そのうえで資料の種類によって細分（中分類）を試みた。分類は以下の通りである。

1. 原資料 旧蔵者の手によって作成（撮影や執筆）されたもの。
 - A. 写真 旧蔵者が撮影した写真（焼き付け）およびフィルム（マウントやスリーブ）。
 - B. 映像 旧蔵者によって撮影された動画。VHSビデオテープやDVDに保存されている。
 - C. 著作物 旧蔵者の著作物。具体的には1995年に刊行した写真集。
 - D. 書簡類 旧蔵者は調査研究活動のなかで、各地の関係者や研究者と書簡をやりとりしている。ここには旧蔵者が発信した書簡やコピー、下書き類だけでなく、第三者から受信したものも含める。
 - E. その他 上記にあてはまらないもの。
2. 複写等資料 旧蔵者以外の人物によって作成された記事や文章など。
 - A. 新聞記事等 コウノトリ等に関する新聞記事の現物（切り抜き）およびコピー。
 - B. 刊行物 論文、書籍、雑誌など旧蔵者以外の著作物およびコピー。
 - C. パンフレット類 機関や団体が広報のために作成したパンフレット類。
 - D. その他 上記にあてはまらないもの。

資料は以上の基準にしたがって、たとえば1A19-05のように整理していった。先頭の数字は大分類、二番目のアルファベットは中分類をさす。数字は資料IDとして付した通し番号であり、封筒や袋、ファイルなどで複数の資料が一括してとりまとめられていた場合には、それにまず通し番号を付したうえで、なかにおさめられた個々の資料に枝番号を付与した。たとえば上記の場合は、原資料（写真）で、資料ID19のフィルムボックスにおさめられた枝番号5番の写真をさす。

2. 概要

資料の一覧を表1に示した。1~21は写真・映像資料で

ある。1~17は撮影した写真をパネルに引き伸ばしたものである。氏はたびたび野鳥の写真展を開催していたので（注2）、その際に作成したものと推測される。営巣するコウノトリが写されたものである。パネルは白光路、カラー、セピアとそれぞれ異なってはいるが、同じ写真パネルが複数枚含まれる。いくつかには「昭和38年4月26日撮影 於福田 TOYOOKA」（資料番号5。以下括弧内の数字はすべて表1の資料番号をさす）や「S38.4.27撮影」（7）と裏面に書き込んだものもあることから推測すれば、これらは豊岡市内で昭和38年前後に撮影したものと考えられる。19はリバーサルフィルムをマウントして収納したフィルムケースである。個々に撮影日や天候、場所などが書き込まれる。豊岡市福田のほか、「Morii」（豊岡市出石町森井）、「Sayuji」（不明、豊岡市）といった地名がみえる。いずれも1955年12月ないし1956年7月に撮影されたものである。20・21は8ミリフィルムで撮影した映像をビデオテープにダビングしたもので、ほかにもデジタル化したものがのこされていた（43）。表書から判断するに、第三者が作成したものと推測できる。個展の際の展示用に作成されたものであろうか。なお、原フィルムは遺品類には含まれていない。ダビングの際に処分されたのか、なお未整理の遺品中に含まれているかはわからない。このほか、印画紙に焼き付けた写真が34・36などの封筒にも多数入れられていた。なかには写真集掲載の写真と同じものもあった。写真集の刊行や写真展の開催にあたってもとのアルバム類から抜き出したものを、そのまま保管していたのではないかと推測される。

22~33はコウノトリに関する新聞記事や雑誌記事の切り抜きをまとめたバインダーファイルである。それぞれ40~60枚ほどが綴じこまれていた。紙幅の都合もあって細目録の公開は後日を期したい。「copy済」と書かれた切り抜きを入れた封筒が挟み込まれた事例（26）から推測するに、日ごろは記事類を切り抜いて保存しており、まとまった段階でそれをA4用紙を台紙として貼り付けて白黒ないしカラーコピーをおこない、それをファイルに綴じる手順で整理していたと考えられる。台紙への貼り付けは1枚につき1記事というわけではなく、複数の記事を1枚にコピーしたものもある。特定の内容に関する記事をあえてまとめたと考えられるものもあれば、掲載紙や日付に共通点がみいだしがたいものもあり、複写に際して一貫した原則があったわけではなかったようだ。整理された新聞記事類は1950年代のものもわずかに含まれていたが、1980年代以降のものが大半であり、とくに野外個体の絶滅以後、人工孵化の試みがはじまり、コウ

表1. 藤本勉氏旧蔵コウノトリ関連資料.

大分類	中分類	資料ID		内容	法量 (cm)	備考	
		番号	枝番号				
I. 資料	A. 写真	1	写真 (木製パネル)	巢上のコウノトリ2羽 (白黒)	53.0×43.0×2.3	7と同一写真	
		2	写真 (木製パネル)	巢上で羽ばたくコウノトリ (1羽うずくまる) (白黒)	53.0×43.0×2.3	8と同一写真	
	A. 写真	3	写真 (木製パネル)	巢上でのクラッタリング (白黒)	53.0×43.0×2.3	4と同一写真	
		4	写真 (木製パネル)	巢上でのクラッタリング (白黒)	53.0×43.0×2.3	3と同一写真	
	A. 写真	5	写真 (木製パネル)	巢上のコウノトリペア (羽ばたく) (白黒)	53.0×43.0×2.3	(裏面)「昭和38年4月26日 撮影 於福田 TOYOOKA.」	
		6	写真 (木製パネル)	巢上のコウノトリペア (白黒)	53.0×43.0×2.3	9と同一写真	
	A. 写真	7	写真 (木製パネル)	巢上のコウノトリ2羽 (白黒)	53.0×43.0×2.3	1と同一写真	
		8	写真 (木製パネル)	巢上で羽ばたくコウノトリ (1羽うずくまる) (白黒)	53.0×43.0×2.3	2と同一写真 (裏面)「S38.4.27撮影」	
	I. 資料	A. 写真	9	写真 (木製パネル)	巢上のコウノトリペア (白黒)	53.0×43.0×2.3	6と同一写真
			10	写真 (木製パネル)	巢上のコウノトリペア (羽ばたく) (白黒)	53.0×43.0×2.3	5と同一写真
			11	写真 (スチレンボードパネル)	松上の巣遺景 (コウノトリ親子) (カラー)	54.7×44.3×0.7	
			12	写真 (スチレンボードパネル)	上空を舞う1羽のコウノトリ (セピア)	54.2×44.0×0.7	
			13	写真 (スチレンボードパネル)	水田に佇むコウノトリ2羽 (セピア)	54.4×44.0×0.7	
			14	写真 (スチレンボードパネル)	川に降り立ったコウノトリ2羽 (セピア)	54.4×35.6×0.7	
			15	写真 (スチレンボードパネル)	巢上でのクラッタリング (セピア)	89.0×54.0×0.7	3・4と同一写真
			16	写真 (スチレンボードパネル)	巢上のコウノトリペア (1羽立つ) (セピア)	89.0×54.0×0.7	9と同一の巢・時期か
			17	写真 (スチレンボードパネル)	巢上のコウノトリペア (2羽立つ) (セピア)	89.0×54.0×0.7	9と同一の巢・時期か
	I. 資料	B. 映像	18	ビデオテープ	但馬のコウノトリ 作・藤本勉 昭30~32歳 影		22分. VHSテープ 「〒672姫路市飾磨区英賀宮町1 (2消し)-15 西播磨愛鳥会様」宛封筒 (姫路市文化振興財団)に入る 収納ケースに入る「コウノトリ」リバーサルフィルム カビ発生
I. 資料	A. 写真	19	現像済みフィルムボックス	計22枚			
		19	-1	リバーサル (マウント)	[C./Sept 12, 1955 cloudy]		
		19	-2	リバーサル (マウント)	[D./Sept.12.1955. cloudy]		
		19	-3	リバーサル (マウント)	[D./Sept.12.1955. cloudy]		
		19	-4	リバーサル (マウント)	[4.July 1956 Morii Kosaka-vill]		
		19	-5	リバーサル (マウント)	[C./Sept 12, 1955. cloudy]		
		19	-6	リバーサル (マウント)	[Sept 12 1955. cloudy]		
		19	-7	リバーサル (マウント)	[Sept.12 1955]		
		19	-8	リバーサル (マウント)	[3.1956.cloudy Fukuda Toyooka-City]		
		19	-9	リバーサル (マウント)	[3.July 1956 Fukuda Toyooka-City]		
		19	-10	リバーサル (マウント)	[3.July 1956. Fukuda Toyooka-City]		
		19	-11	リバーサル (マウント)	[4.July.1956 morii Kosaka-vil]		
		19	-12	リバーサル (マウント)	[D./Sept 12.1955 cloudy]		
		19	-13	リバーサル (マウント)	[C./Sept 12.1955 cloudy]		
		19	-14	リバーサル (マウント)	[C./Sept 12.1955 cloudy]		
		19	-15	リバーサル (マウント)	[F4.1/250 14.Aufusut.1955.]		
		19	-16	リバーサル (マウント)	[4.July.1956. Morii Kosaka-vil]		
		19	-17	リバーサル (マウント)	[3.July 1956. Sayuji Toyooka-city]		
		19	-18	リバーサル (マウント)	[F8. 1/250 Iakumar 13.July. 1955.]		
		19	-19	リバーサル (マウント)	[C./Sept 12.1955 cloudy]		
19	-20	リバーサル (マウント)	[3.July.1956 Sayuji Toyooka-city]				

表1. 続き.

大分類	中分類	資料ID 番号 枝番号	種別	内容	法量 (cm)	備考
1.	資料	19 - 21	リバーサル (マウント)	[4.July.1956 Morii Kosaka-vill]		
1.	資料	19 - 22	リバーサル (マウント)	[3.July.1956 Izushi TOKEIDAI]		
1.	資料	20	ビデオテープ	【巨馬のコウノトリ】藤本勉氏撮影の8ミリ映画より作成 平成九年十月		VHSテープ ケースに「平成9年12月24日受領分」ラベル
1.	資料	21	ビデオテープ	【大空へ飛べコウノトリ】平成10 (1998) 年1月		VHSテープ
2.	複写等資料	22	新聞記事等	新聞記事綴 (A4ハインダー フォイル) 「コウノトリ新聞コピーNo1 1950～」		背表紙「コウノトリ新聞コピーNo1」
2.	複写等資料	23	新聞記事等	新聞記事綴 (A4ハインダー フォイル) 「コウノトリ新聞コピーNo2」		背表紙「コウノトリ新聞コピーNo2」
2.	複写等資料	24	新聞記事等	新聞記事綴 (A4ハインダー フォイル) 「コウノトリ新聞コピーNo3」		背表紙「コウノトリ新聞コピーNo3」
2.	複写等資料	25	新聞記事等	新聞記事綴 (A4ハインダー フォイル) 「コウノトリ新聞切抜No4 2007-12-30～」		背表紙「コウノトリ新聞切抜No4」
2.	複写等資料	26	新聞記事等	新聞記事綴 (A4ハインダー フォイル) 「『鳥』コウノトリ」		背表紙「『鳥』誌コウノトリ」
2.	複写等資料	27	新聞記事等	新聞記事綴 (A4ハインダー フォイル) 「コウノトリ関係 2007-7」		背表紙「コウノトリ関係切抜」
2.	複写等資料	28	新聞記事等	文献コピー綴 (A4ハインダー フォイル) 「『私たちの自然』コウノトリ」		背表紙「私たちの自然」表紙に付箋「私たちの自然1号～2007 7月号」「2007-7-15号～2007-8-9号スミ」
2.	複写等資料	29	新聞記事等	文献コピー綴 (A4ハインダー フォイル) 「『野鳥』コウノトリ」		背表紙「『野鳥』誌コウノトリ」
2.	複写等資料	30	新聞記事等	文献コピー綴 (A4ハインダー フォイル) 「『野鳥』コウノトリ」		背表紙「『野鳥』誌コウノトリ」
2.	複写等資料	31	新聞記事等	文献コピー綴 (A4ハインダー フォイル) 「『バーダー』コウノトリ」		背表紙「『バーダー』誌コウノトリ」
2.	複写等資料	32	新聞記事等	文献コピー綴 (A4ハインダー フォイル) 「コウノトリ関係文献」		背表紙「コウノトリ関係文献」
2.	複写等資料	33	新聞記事等	新聞記事綴 (A4ハインダー フォイル)		背表紙「コウノトリ関係」
1.	資料	34	封筒 (未整理写真入)	「コウノトリ写真」		
1.	資料	35	封筒 (メモ)	「コウノトリ調査資料」		住所メモ等
1.	資料	36	封筒 (コピー, 封書等)	「コウノトリ資料 6.5.5」		
1.	資料	37	封筒 (書類)	「全国のコウノトリ飛来状況 調査依頼の返信」		
2.	複写等資料	38	未整理新聞記事一括			『ネットワーク』誌No.108にはさんだ状態で保管
2.	複写等資料	39	封筒 (新聞切抜一括)	「コピー済切り抜き在中 2007-5-22」		表紙に付箋「新聞切りぬき コウノトリ」
1.	資料	40	写真集 (消えた翼=湿原の女神コウノトリ) (藤本勉著)			15冊入りの包4個
1.	資料	41 - 1	DVD	「大空へ飛べコウノトリ 平成10年 (1998) 1月」		
1.	資料	41 - 2	DVD	「弘前より送られたコウノトリ写真展 平成7年」		

表1. 続き.

大分類	中分類	資料ID 番号・枝番号	種別	内容	法量 (cm)	備考
1.	資料	42 -1	DVD	「タッタ1羽のコウノトリ 1996.1月～3月」 「コウノトリ」		「作：竹内錦司 静岡市麻機沼に'95.12月に舞降り、'96.3月16日朝北に向けて旅立った！」 「作：竹内錦司 静岡市麻機沼に'95.12月に舞降り、'96.3月16日朝北に向けて旅立った！」「BGM:天の子守歌(蒙古に伝わるコウノトリを歌った唄と云う)」[1996.3月]
1.	資料	43 -1	DVD	「但馬のコウノトリ 平成九年十月 藤本勉氏撮影の8ミリ映画より作成」		
1.	資料	43 -2	DVD	「但馬のコウノトリ 昭和30～32 撮影(2分) 作：藤本勉」		
1.	資料	44	DVD	DVD 「水辺の鳥を訪ねて 湿原の女神」		古い写真をデジタル化したもの
1.	資料	45	DVD	DVD 「水辺の鳥を訪ねて 湿原の女神2」		
1.	資料	46	藤本勉「消えた翼(悲運のコウノトリ)」抜刷	姫路自然史研究会会報IV, Aug.1. 1979		
1.	資料	47	封筒(書籍・抜刷)			40・46を入れたもの
2.	複写等資料	48	A4クリアファイル(未整理書類一括)			新聞記事, 書簡など雑多
2.	複写等資料	49	封筒(論花生原稿コピー)	「小林平一鳥学会講演原稿在中」		昭和27年9月日本鳥学会例会の講演原稿コピー
2.	複写等資料	50	封筒(未整理書類一括)			新聞記事, 文献コピー, 書簡など雑多
2.	複写等資料	51	封筒(パンフレット類)	「2005年コウノトリ資料」		
2.	複写等資料	52	封筒(未整理書類一括)	「コウノトリ資料 藤本 10年4月22日受領署名」		文献コピー
1.	資料	53	封筒(写真, コピー等一括)	「昔のコウノトリの写真書類」		

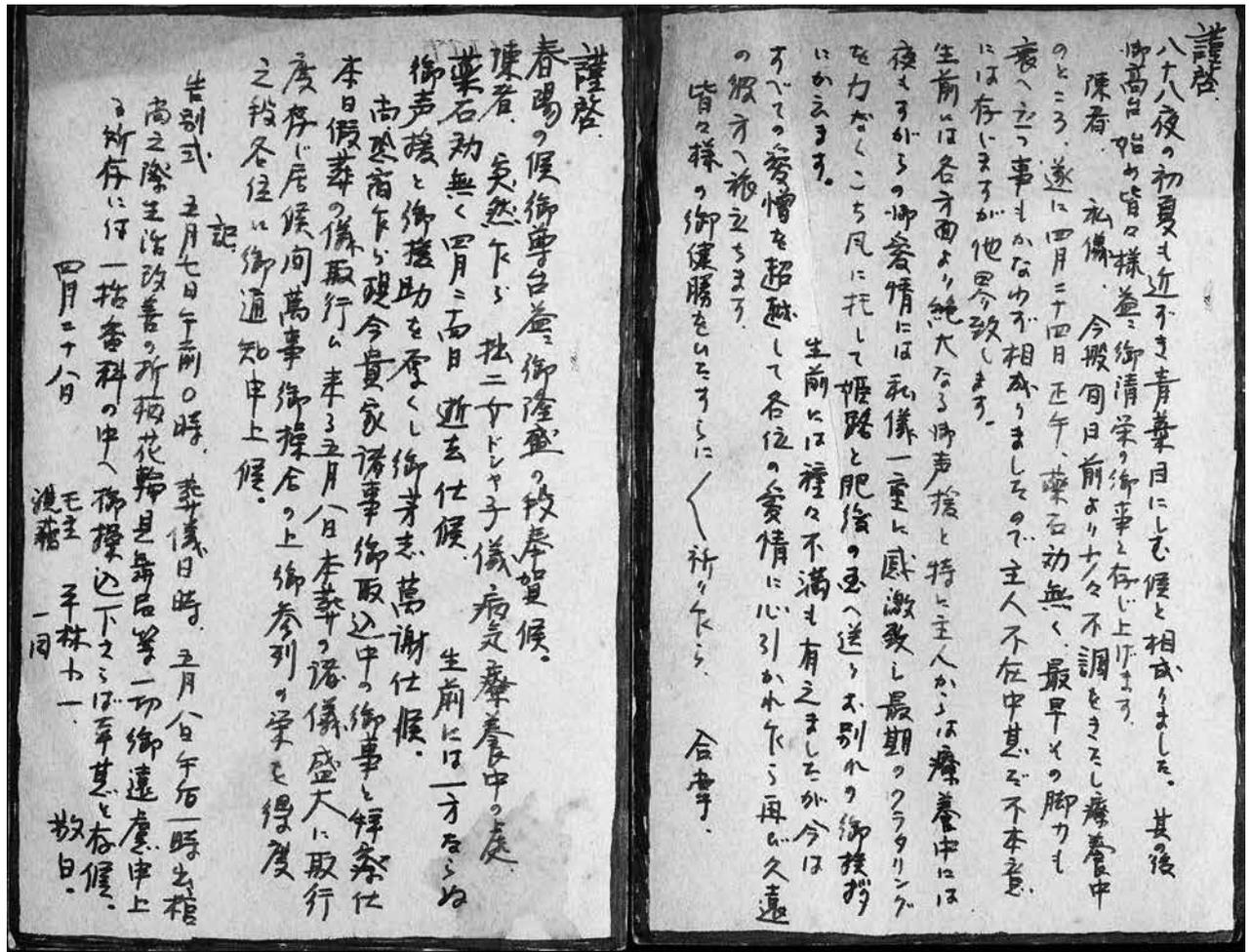


図1. コウノトリ死亡通知・会葬はがき (小林平一作成)。

ノトリの郷公園が構想・開設される時期の記事がめだつ。内容は各地の飛来事例や、コウノトリ保護活動に関するもの (22・23など)、また特集記事が企画された場合は大型写真も含めて整理されていた。掲載紙のほとんどは読売新聞・神戸新聞であり、コウノトリに関するある報道がなされた際に、すべての掲載紙を収集するといった姿勢はみられない。日常の購読紙の範囲で収集していたものと推測される。28~32は日本鳥類保護連盟の機関誌『私たちの自然』や日本野鳥の会の会誌『野鳥』、野鳥観察の専門誌『BIRDER』(文一総合出版)などに掲載された記事を綴じたものである。

34~39・47~53は、切り抜きや私信、メモ、写真などが封筒に雑多におさめられていた。自身による整理が完了しないままに遺されたものであろうか。これらは私たちの資料整理も完了していないために詳細な言及はかなわれないが、管見にふれた範囲で紹介しておきたい。34・36には昭和34 (1959) 年に豊岡で開催された「こうのとりの保存会」主催の保護事業についての打合せへの出席依頼や関連資料が含まれる。翌年にはコウノトリ保護協

賛会が北但馬農林出張所を事務局として発足しているので (菊地・池田 2006)、その準備会となる会合と思われる。35・37は封筒の表書に「コウノトリ調査資料」(35)や「全国のコウノトリ飛来状況 調査依頼の返信」(37)とみえる。日本野鳥の会各支部の住所メモや書簡類が入っており、氏自身が会員だった同会のネットワークを通じて、コウノトリの飛来情報を収集していたことがわかる。46~50は論考や調査報告の抜刷が含まれる。46は氏が1979年に姫路自然史研究会の会報に投稿した文章 (藤本 1979) の抜刷である。48・49は小林平一の論考の抜刷・複写がめだつ。後者は1952年9月に日本鳥学会例会で小林がおこなった講演「コウノトリの蕃殖地及びその保護対策について」の発表原稿 (複写) である。50には氏が『毎日姫路しんぶん西はりま版』(平成5年10月3日~平成6年4月3日)に連載した「消えた翼 コウノトリ物語」の掲載紙が含まれる。研究対象として、コウノトリの何に氏が興味関心を有していたかをうかがわせる資料である。48には小林平一が作成したと思われるコウノトリの死亡通知・会葬はがき (昭和35年4月28日付) が

含まれていた(図1)。黒枠や文章はすべて手書きで、「ドシャ子」と名づけられていたコウノトリに仮託して自らの死を伝える挨拶状と、小林が「モ主」となって葬儀をおこなったことを報ずるものである。皮肉やユーモアを感じさせる文面で、両者の間で緊密にこのような情報交換がおこなわれていたことをうかがわせる。52は表書に「コウノトリ資料 藤本 10年4月22日受領(署名)」と書かれたもので、新聞や『兵庫の鳥』、『野鳥』誌など新聞・雑誌にあらわれた各地の飛来記事を集成した一覧が入れられていた。一部には記事のコピーが添えられていた。封筒と中身がもとから一致していたとすれば、これら資料の作成者は氏以外の第三者であった可能性も考えられる。どのような経緯で作成されたものか詳らかにしきれないが、1970年代からの情報を中心にまとめたもので、わずかに戦前の情報も含まれる点は興味深い。

藤本勉氏旧蔵コウノトリ関連資料の意義

野外コウノトリの絶滅に至る経緯は現在、一種の「神話」ともいべき言説が一般的に受け入れられている。すなわち、戦前からの繁殖地であった出石鶴山は戦中の松根油採取のための伐採で荒廃し、戦後には農薬の普及によって餌が減少した結果、野外コウノトリは急激に数を減らし、やがて絶滅に至ったという一種明快な説明だ。これがまったくの誤謬であるというわけではないが、生態学的にみても野外コウノトリの絶滅原因は決して単一の要因で語れるものではないはずだ。コウノトリの生態はもちろん、生息環境そのものの変化や、人とコウノトリの関係など、多角的な観点から慎重に検証していかなければならないことはいまでもない。野生復帰は現在の喫緊の課題として取り組むだけではなく、このような歴史的背景の解明も必要である。

そのためにも戦後のコウノトリ保護活動を検証することは重要な課題のひとつであるが、これについては当時その活動に携わった方々や見聞きしていた方々が鬼籍に入り、証言が得られなくなっただけでなく、そうした方々が収集・保管していた資料も徐々に散逸され、破棄されつつある。歴史学的な検証が困難になりかねない状況において、藤本氏が収集した資料の価値は決して小さいものではない。

そのひとつとして、写真資料があげられる。氏が撮影した写真は営巣状況を示すものが大半であった。これは氏がコウノトリの営巣につよい関心を持ち、営巣地をめぐらせた観察活動を続けていたことを物語る。但馬にお

けるコウノトリの繁殖地としてとりわけ著名であった出石鶴山は日露戦争前後より営巣が話題となり、大正10(1921)年に「鶴山鶴蕃殖地」として天然記念物に指定された経緯はよく知られている。鶴山は戦後になると営巣がなくなって昭和26(1951)年に天然記念物指定が解除され、養父郡旧伊佐村(養父市伊佐)があらたに「伊佐のコウノトリおよびその繁殖地」として指定された。氏の撮影した写真をみると、出石鶴山の写真はほとんどみあたらず、わずかに天然記念物指定の標柱を写したものがこの程度である。それに対して、鶴山の北に位置する森井地区での営巣写真が多数のこされていた。出石地域における営巣地の移動が裏づけられると同時に、氏の観察活動や写真撮影のねらいがわかる。1950年代後半の野外コウノトリを写した写真は、絶滅直前の一齣を記録したものとして貴重である。

また氏は、観察や写真撮影を継続的におこなっただけでなく、日本各地の飛来情報の収集にもつよい関心を持っていた。但馬地域で年々、野外個体が減少して撮影が困難になるなかで、他地域での飛来情報に関心を持つようになったのではなかろうか。氏自身も会員であった日本野鳥の会の地方支部へアンケートを送付して、各地の愛好家に対して情報提供を呼びかけていた。広汎に展開する在野の愛好家・活動家のネットワークが保護活動に果たした役割を歴史的に検証し得る点でもきわめて興味深い資料である。

コウノトリに関する新聞・雑誌記事の収集も重要な価値を持つ。氏の収集スタイルはすべての新聞や雑誌を精査するような網羅的なやり方ではなかったが、購読していた新聞や雑誌に関しては丁寧な収集をおこなっていた。野外個体の絶滅後、人工飼育・孵化が試みられ、やがてロシアからの個体再導入、そして野生復帰事業の拠点としてコウノトリの郷公園が構想され、開設に至る時期の記事がこのこされていた。氏の関心が奈辺にあったかを如実に物語るだけでなく、野生復帰事業に対して、当時の社会もきわめて高い関心を抱いていたことがわかる資料といえるだろう。これらを通して、当時の人びとが抱いていた熱量をあらためて認識することは現在の私たちにとって決して無意味ではないはずだ。

おわりに

以上、藤本勉氏旧蔵のコウノトリ関係資料の概要とその意義について略述した。資料整理がすべて完了していないために今後の課題とせざるを得ない点は多々ある

が、在野で活動されたひとりの研究家の足跡を紹介する意義は少なくないと考え、本稿を草した次第である。資料目録は整備のうえ、何らかのかたちで公開の途をはかりたい。

戦後のコウノトリの生息状況や保護活動の一端を知るうえで意義深い本資料であるが、一方でアーカイブズという観点からすれば若干の問題点も存在する。さいごにいくつか確認しておきたい。

本資料は原所蔵者である藤本氏が逝去されてのち、ご遺族が遺品整理をすすめるなかで見出されたものである。アーカイブズ学では資料の作成や管理・保存、利用・廃棄のシステムの究明も重要であり（国文学研究資料館編 2014）、一般的には保管場所のちがいやそこにおかれた資料の種類を分析することでこのような情報が得られるが、今回の場合はその解明を意識した体系的・網羅的な資料群の把握や取りあげがなされたわけではない。その結果、資料の全容に関する情報を得ることができなかった。端的に言えば、ここで紹介したものが氏のコウノトリ関連資料のすべてであったかどうかである。たとえば写真家として知られた氏の足跡からすれば、写真資料がこれですべてであったとは到底考えがたい。

もちろん、遺品整理とアーカイブズ調査とは目的が根本的に異なるわけであるし、遺品整理という行為自体が、本質的には故人のコレクションやアーカイブを解体していくものであるわけだから、個人所蔵の資料を扱うにおいてはむしろやむを得ない問題というべきではあろう。野鳥観察は、研究者ばかりではなく趣味として愛好する人びとにも共有される裾野の広い分野である。また保護活動にしても、何らかの本業を有する傍らで取り組んだ人びとのほうが大多数であろう。人とコウノトリの関係史の解明、とくに近現代の問題をあつかうには、専門家ののこした資料ばかりではなく、社会のなかで別に本業を持ちながら携わった人びとのささやかな記録や証言こそがときに貴重な資料となり得る。往々にして世間から隠れがちなそれらを歴史資料として見出し、すくいとってゆくには、資料の保管や散逸に関するこのような問題はいつもつきまとうことを念頭におく必要がある。

その点でいえば、今回の整理で明らかになったのは、野鳥全般に関心を持っていた氏の活動のごく一端にすぎない点も十分に認識しておく必要があるだろう。たとえば生前に寄贈された標本収集の意図や背景を示す資料は今回の調査ではみつかっていない。本資料の評価も本来ならば氏の活動の全容を俯瞰したうえで論ずることがのぞましい。

おそらく今後の遺品整理の進展によってあらたな資料が出てくる可能性はきわめて高い。かかる問題の解決はさらなる資料の発見を待ちながら、今後の課題としておきたい。

注

- (1) 小林平一（1923～2002）は国の選定保存技術者にも認定された瓦師で、姫路城の昭和大修理や書寫山圓教寺をはじめとする各地寺社の修理に携わった。一方で、鳥類・昆虫類の研究者としても知られており、氏が収集した膨大な鳥類・昆虫類標本（鳥類で約8,300羽という）は没後、姫路科学館に寄贈されている（姫路科学館 2010）。
- (2) 令和元年12月3～7日には兵庫県立西播磨文化会館で『野鳥の写真展 野鳥写真の変遷』と題した個展を開催している。戦後のコウノトリ保護事業に関する映像のほか、多種類の野鳥の写真を展示したものであった。また、表1資料36には平成9（1997）年に旧出石町町制施行40周年事業として企画された「但馬いずしコウノトリ展」への協力に対する出石町教育長からの礼状が含まれており、自治体主催の展覧会への資料提供・協力もおこなっていたようだ。

謝辞

藤本氏資料の寄託にあたっては、藤本氏ご遺族のご意向のもと、黒田治男氏の仲介を得た。黒田氏には種々のご配慮・ご教示をいただいた。また資料整理には西垣比呂美氏の手を煩わせた。末筆ながら感謝申し上げたい。

本稿は令和5年度兵庫県立大学特別研究プロジェクト推進事業「人とコウノトリとの関係史にもとづく持続可能な共生の通時的検証」の成果の一部である。

摘要

兵庫県立コウノトリの郷公園ソシオ研究部は、在野の野鳥研究者・保護活動家であった藤本勉氏（1934～2021）が撮影した野外コウノトリの写真や映像、著作物、新聞・雑誌記事や保護活動に関する資料の寄託を受けた。本報文ではこれらを整理し、資料の意義を論じた。写真や映像は1950年代後半の出石地域を写したもので、出石鶴山から森井地区に営巣地が移った状況を示す。新聞・雑誌記事は1980～2010年ごろが中心で、野外個体の絶滅後、人工繁殖の試みを経て、野生復帰の拠点としてコウノトリの郷公園が構想・設立される時期を含む。このほか、各地へのコウノトリ飛来情報を、全国各地の野鳥愛

好家のネットワークを通じて収集した記録・文書や、戦後に但馬で活動したコウノトリ保護協賛会に関する資料ものこされていた。コウノトリの生態のみならず、それを取りまく戦後期の社会的環境を知る貴重な歴史資料となり得る点で資料的価値は大きい。

キーワード 観察記録, コウノトリ保護活動, 写真資料, 野外コウノトリ, 歴史資料

引用文献

菊地直樹・池田 啓 (2006) 但馬のこうのとり. 但馬文化協会, 豊岡, 304 p.

国文学研究資料館 (編) (2014) アーカイブズの構造認識と編成記述. 思文閣出版, 京都, 380 p.

小林さやか・山崎剛史 (2010) 山階鳥類研究所の寄贈標本 - 藤本勉氏寄贈標本目録 - 山階鳥類学雑誌, 42:110-116.

姫路科学館 (2010) 小林平一コレクション目録 鳥類編. 姫路科学館, 姫路, 253 p.

藤本 勉 (1979) 消えた翼 (悲運のコウノトリ). 姫路自然史研究会会報, 4:36-42.

藤本 勉 (1995) 消えた翼 湿原の女神コウノトリ. 中央出版, 姫路, 92 p.

